

男性の子育てについて

□調査期間 平成28年12月1日～平成28年12月8日

□調査の趣旨 本市では男性の子育てについて推進しています。今後の取り組みの参考とするため、皆様のご意見をお聞きます。

□対象者数 570 人(平成28年12月1日現在)

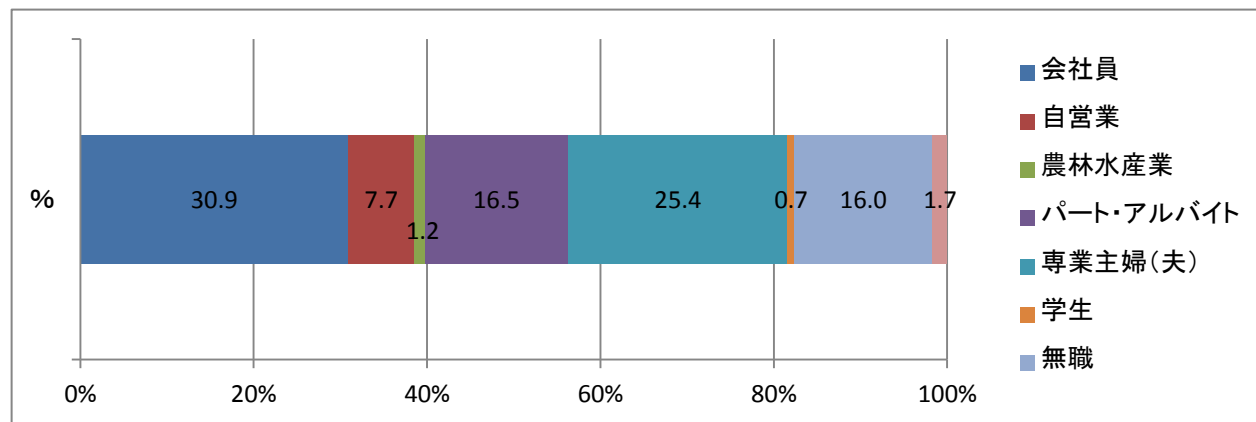
□回答者数 418 人

□回答率 73.3 %

(図および表中の比率は、少数点第2位を四捨五入して表示しています。したがって、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。)

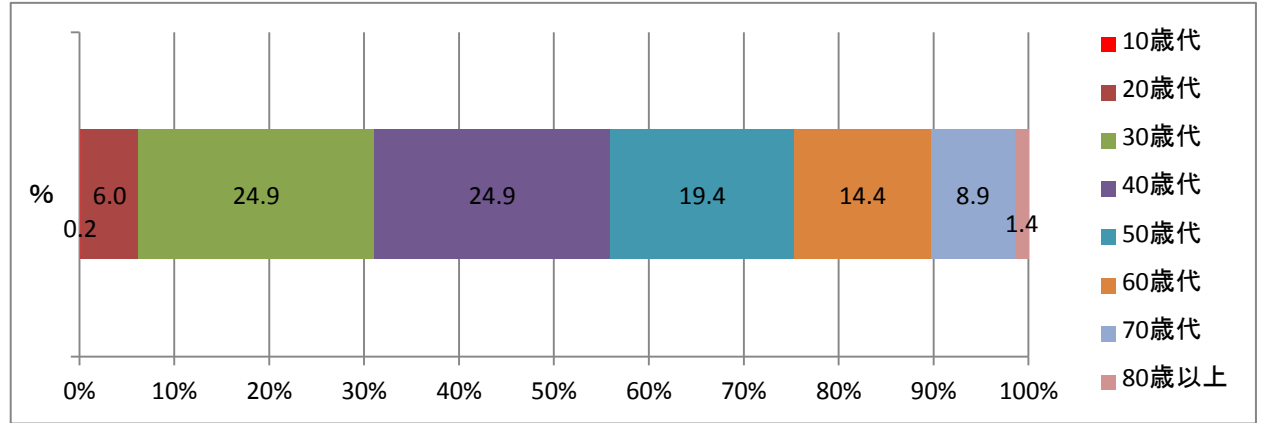
【ご職業】

内訳	人数	%
会社員	129	30.9
自営業	32	7.7
農林水産業	5	1.2
パート・アルバイト	69	16.5
専業主婦(夫)	106	25.4
学生	3	0.7
無職	67	16.0
その他	7	1.7
合計	418	100.1



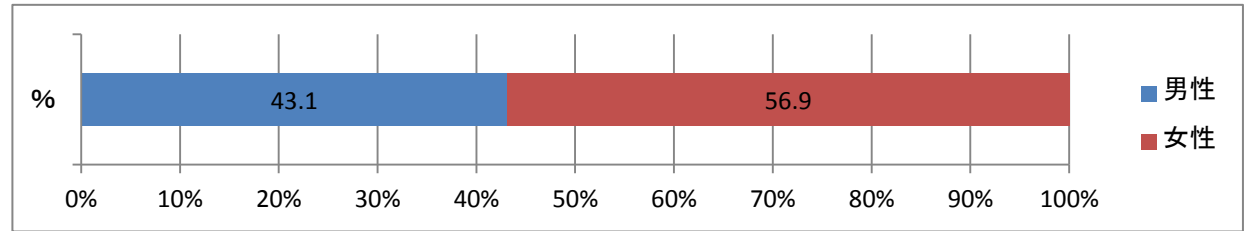
【年齢】

内訳	人数	%
10歳代	1	0.2
20歳代	25	6.0
30歳代	104	24.9
40歳代	104	24.9
50歳代	81	19.4
60歳代	60	14.4
70歳代	37	8.9
80歳以上	6	1.4
合計	418	100.1



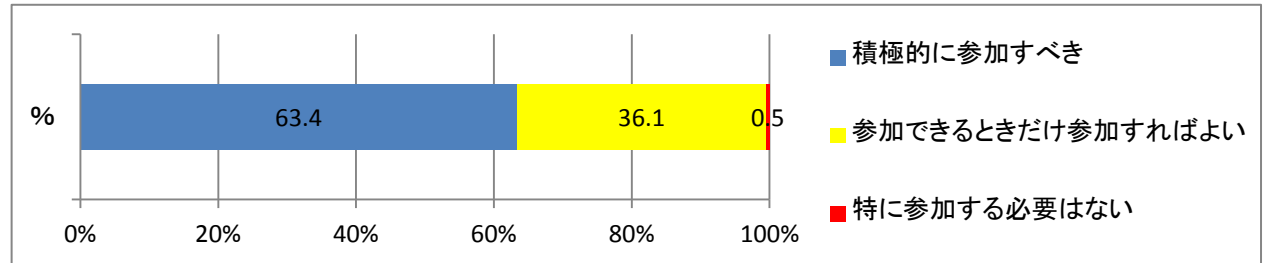
【性別】

内訳	人数	%
男性	180	43.1
女性	238	56.9
合計	418	100.0



【問1】男性が育児に参加することについてどのように思いますか。

内訳	人数	%
積極的に参加すべき	265	63.4
参加できるときだけ参加すればよい	151	36.1
特に参加する必要はない	2	0.5
合計	418	100.0

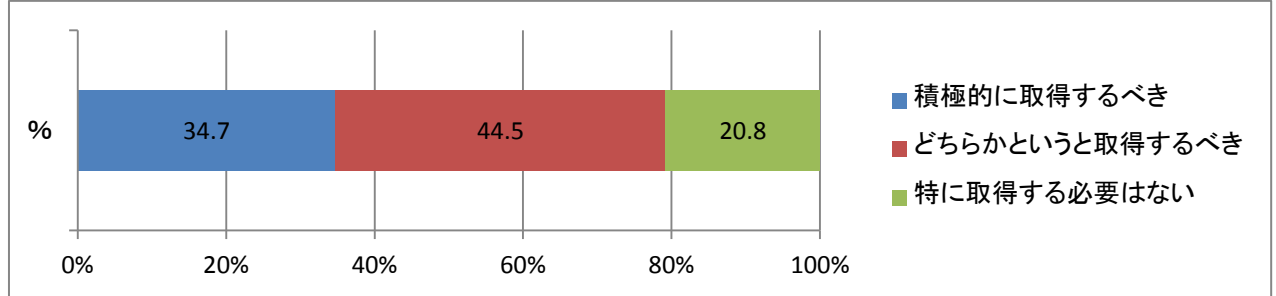


【問1-1】 問1で「特に参加する必要はないと思う」と答えた方にお聞きします。どのような点において、そう思いますか。詳しくご記入ください。該当者2名

役割分担
 生物学的に向いていないから、足手まといになる。向いてない人に世話してもらおう子供の迷惑を考えるとぞっとする。育児ではなく家事をマスターするほうが大事と思っているので。

【問2】 男性が育児休業を取得することについてどのように思いますか。

内訳	人数	%
積極的に取得すべき	145	34.7
どちらかという取得すべき	186	44.5
特に取得する必要はない	87	20.8
合計	418	100.0

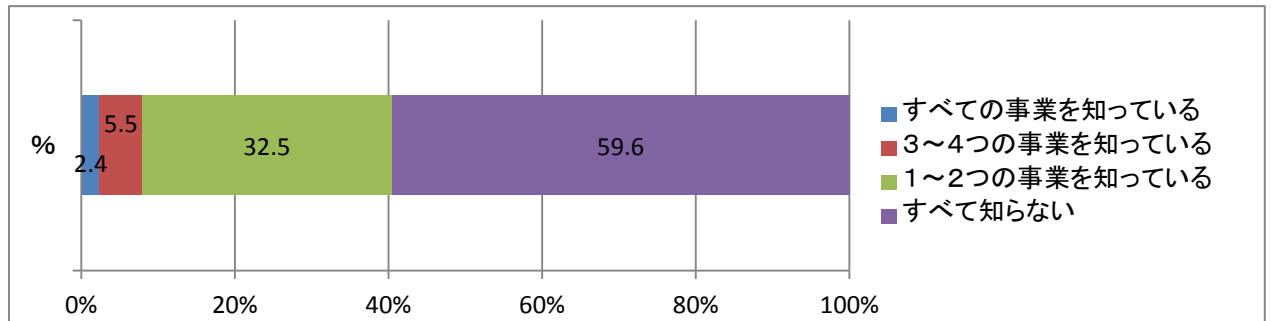


【問3】 本県では、平成23年社会生活基本調査において、6歳未満の子どもがいる夫の1日あたりの育児時間が23分で全国最下位という結果があります。本市においても、

- ① パパウイークの開催
- ② 父子手帳の発行
- ③ 男性育児休業取得助成金事業
- ④ 男性が輝く和歌山推進事業
- ⑤ 男性子育て推進事業

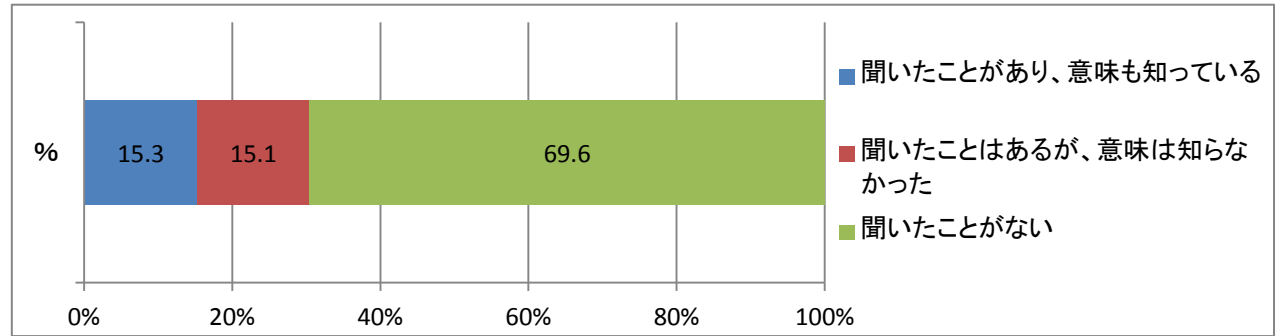
といった様々な男性の子育てを推進する施策を講じてきましたが、これらの事業を知っていますか。

内訳	人数	%
すべての事業を知っている	10	2.4
3～4つの事業を知っている	23	5.5
1～2つの事業を知っている	136	32.5
すべて知らない	249	59.6
合計	418	100.0



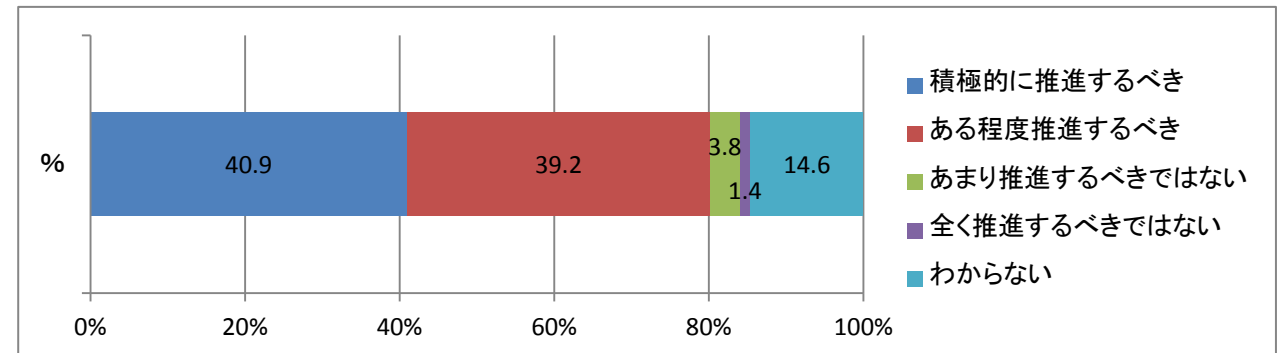
【問4】新たな言葉として、職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランス(仕事と生活の両立)を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のことを「イクボス」といいます。「イクボス」という言葉を聞いたことがありますか。

内訳	人数	%
聞いたことがあり、意味も知っている	64	15.3
聞いたことはあるが、意味は知らなかった	63	15.1
聞いたことがない	291	69.6
合計	418	100.0



【問5】「イクボス」については、国や企業でも積極的に推進する動きがあります。本市においても、推進していくべきだと思いますか。

内訳	人数	%
積極的に推進するべき	171	40.9
ある程度推進するべき	164	39.2
あまり推進するべきではない	16	3.8
全く推進するべきではない	6	1.4
わからない	61	14.6
合計	418	99.9



【問5-1】問5で「あまり推進するべきではない」「全く推進するべきではない」と答えた方にお聞きします。どのような点において、そう思いますか。詳しくご記入ください。該当者22名

古い人間と思われるかも知れませんが、実際会社を育児であろうと離れると現実には戻る場所を確保することは男性としては、難しく思います。

生活環境により異なる。共働き、専業主婦、収入源により育児への関わり具合が異なるので一概に単に薦めるだけのお役所仕事なら止めた方がいい。けど、子育てへ関わる父親の重要度は認識はしている。生活環境に応じた制度を検討すべき！

管理職の方の負担が増えるだけだと思います。言葉だけが一人歩きします。机上でどんなに良い制度を考えても、実行する人間の気持ちから従業員に向いていないと、労働環境の改善はないと思います。

男の負担が大きすぎる。

地域社会全体の意識改革が急務であり、いたずらに流行り言葉で上っ面の仕組みを作ってもかえって足かせとなり、また、社会全体のコストが増加する。

国や企業がわざわざ言うものではない。今の世の中まず環境ができていないのに推進しますというだけで、人手不足の中、仕事を詰めるだけ詰めて、さあ仕事も私生活も楽しむイクボスになりましょうといわれても現実を見ていない人ののんきな対策にしか見えません。

自然とこれらができる人はいいけれど、無理な人がやろうとするなら、目指す目標が多すぎ。どれか一つでも上手いかなと失敗になりそう。

名前だけ先行しても・・・

男性は仕事に全力投球すべきであり、女性(妻)は育児という大きな仕事に全力投球すべきである。それではなくては子供は立派に育たない。と確信するから。

子供を育てることはそれぞれの家庭(夫婦)の最大の問題であり公園や学校、交通機関等子育て環境を良くすることは社会全体が考えていくべきと思うが、男性も子育てせよと社会が押し付けるのは少し違うように思います

プライベートな部分に国や自治体が踏み込みすぎるのは感心しない。

本人がしたいのであればすばいと思うが、社会自体がイクメンやイクボスを推進するのは無責任。あくまでも本人が希望すればの話であって推進するのは違和感を感じる。

定められてするものではないと思う。

家族が助け合っていくのは理想だけれど、最近は行きすぎている感もします。

大企業は良いが小企業では会社として無理がある。

わざわざそういう言葉を作らないといけないのか…。悲しい世の中です。育児に参加するとかしないとか、親なら育児するのが当然だと思う。仕事と生活の両立できない人が、育児しても、どんな子どもが育つのか…。怖い世の中です。

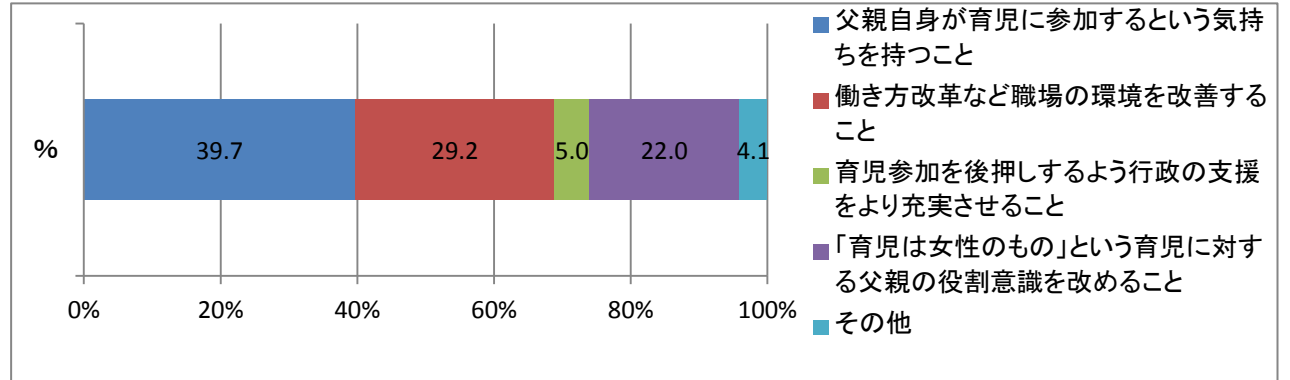
各企業により、経営方針や業績が異なるなか、行政(市)が簡単に介入すべき？できる？問題では無いと思います。公務員と企業の感覚は違うと思います。また、定年まで勤めましたが、すでに企業内で取り組みを実施しています。

結局仕事の量が多くて実現できないから。

古い考えだと理解しますが、育児は妻に任せ、旦那はお金を稼いできて子供のために使うべきだと思います。

【問6】今まで以上に、男性の育児参加を促すために必要なことは何だと思いませんか。

内訳	人数	%
父親自身が育児に参加するという気持ちを持つこと	166	39.7
働き方改革など職場の環境を改善すること	122	29.2
育児参加を後押しするよう行政の支援をより充実させること	21	5.0
「育児は女性のもの」という育児に対する父親の役割意識を改めること	92	22.0
その他	17	4.1
合計	418	100.0



【問6-1】「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。該当者17名

男女ともに働きやすく、育児しやすい環境を作り、仕事と育児家事の分担を男女関係なく選択できる社会を作ること
 そんなに無理に参加する必要ありますか？育児参加というより、労働時間を短くして、家庭で過ごす時間が長くなれば、自然と家事育児に参加する機会があるのでは。
 幼児から心の教育が成されれば、取り立てて男性の育児参加を促す必要も無く、夫婦で子育てする合理性が理解できるのでは。
 参加しなくて良い。
 必要ないと思う。

選択肢1個人の感性の問題 選択肢2役所内は知らないが、民間会社は皆ギリギリ働いている、受け入れる余裕は？ 選択肢3行政の支援？セミナー等きれいごと、ヘルパー派遣など出来るか？ 選択肢4きれいごとの極み 父親だけを考えるのではなく、社会全体を変えることを
 家事も満足にできない、子育てに慣れない男性に世話される子供の迷惑を考えたら「育児は女性達のもの」なのは当然。清潔に対する感性や融通の利かなさを男性に感じる人が多いので、育児参加をさせたくない。
 男性の育児参加は不要と考えるから。子供は、懸命に働く父親の背中を見つめ、母親の深い愛情を受けて育つものであるから。
 ”6歳未満の子どもがいる夫の1日あたりの育児時間が23分”この数字が物語っていることは、何をどうすればいいかわからないから出来ることが少ない、出来ることが少ないから、参加時間も少ないのでは？
 子育てしない男性と結婚しない、というふうに女性の意識を変えること。また、男性がいなくても十分育児ができるような収入をもち、自立すること。それによって子育て、ないし家族へ協力しなければ家族から捨てられる、という危機感を男性に持たせる。もしくは、女性から 子育てしない男性なんかいらぬ、と言えるような保障があればいい。
 女性が働いて、男性が育児をするべき。
 それ以前に和歌山は女性が働きやすい環境でしょうか。私の周りでは働いている女子が少ないです。男子も恐らく嫁さんには家にいて欲しいという思いが強い人が多く感じます。女子が働きたいと思える環境も必要なのでは。
 役割分担もその比率もまずは夫婦で考える事柄だろ思う。そういう意味では100対ゼロでもかまわない。

例えば、学校とかで、母の日は、いつも家事等ありがとうと言う。でも、父の日は、仕事ありがとうと言う。この時点で、社会自体が、父親に育児家事等をしていないという認めているのではないですか？ 実際には、家事も育児もしている父親もいるのにと。そういうところから育児に参加したらいけないような風潮があるように思う。その一方で、育児参加を促すといっている…。矛盾した世の中ですね。
 電気屋さんなどの男性の多く集まる場所への、育児スペースやキッズスペースの設置
 古い考えだと理解しますが、育児は、妻に任せ旦那は お金を稼いできて子供のために使うべきだと思います。

【問6-2】問6で「働き方改革など職場の環境を改善すること」と答えた方にお聞きします。具体的にどのような点を改善すべきだと思いますか。詳しくご記入ください。該当者122名

土日どちらかを必ず休みにする。

3歳までの子供を持つ働いている父親は、就業時間を短めや、休日を多めに制定したり、父親も積極的に育児に参加できるようにさせてあげる。

既存の利益重視なビジネスモデルでは無理です。新しい働き方を生み出すこと。新しい生き方を生み出すこと。

長時間勤務是正、突発的な休みにも柔軟に対応できる充分な労働者の確保

企業の福利厚生充実、社会全体が20時には帰宅できるような職場改善、平日にしか手続きができない行政&銀行の用事ができるような時間単位の有給休暇制度など

休んでもよい雰囲気作り、労働時間の短縮

男性が、育児することを周りの者が、理解する環境

育児休暇中の収入の保障・ある程度の職場状況の伝達 職場復帰の保証

根本的に世の中の労働環境を考えないと不可能。どこの会社でも無理に休めば翌日は席がなくなってしまうような今の労働状態では実施できる事業所なんて皆無である。

経営側の理解を深めるため、研修、指導などを積極的に実施する。

休暇を取れるという権利は与えられているが、それが実際に取れる環境かというところではないと思う。上司はもちろん、同僚の仕事のフォローなど周りの協力・理解が伴わないと積極的に育児参加できる環境とは言えない。具体的には、6歳以下の子供がいるということを知りやすく提示するなどもいいと思う。大きい部署では子供が何歳である、何人いるまで把握しきれないことも多いので。

根本から改善するには、行政ではなく国が指導すべき。

まず企業側が理解していない。

子供のいる家庭の親は必ず制度の利用を義務付ける。

父親が育児に参加するのは当然、という考えが普通になればいいと思う。上に立つ人間ほど仕事で努力してきたから、育児に参加したい人の気持ちが分からないのかなと思う。

育児参加しようとするとうまくも仕事量が減ってしまい、周りの同僚に迷惑をかけてしまうと思いがちで参加できないのではないかなと思う。そうした遠慮をしなくてもいいように改善すべき。

正直、基本的な給料体系を向上させなければ、育児休暇や短時間労働などへの切り替えは難しいと思います。

啓蒙活動 不在の時にフォロー出来る業務分担 意識改革が最も重要と考えます。

男性が育児に参加しようと思っても、それができないと思う。具体的には、早退や定時に帰ろうとしてもかわりに業務をしてくれる人材がないため、遠慮して早退できない・定時に帰れない。また、そもそも月100時間近くのオーバーワークをしなければ終わらない職場などでは、さらに育児に参加しようという気がおきないのではと思う。

男性の育休があっても実際仕事が忙しいなどで取得出来ない点

職場がもっと育児に対してサポートしなければならない。

休暇の計画的取得の推進や労働時間帯をフレキシブルに対応する等で、その人の事情を考慮できる体制に企業側が努力すべき。

安心して育児参加が出来るよう、人事制度等職場環境を整える。

今の社会では、正社員が生き残る為にはかなりハードな要求を会社は求めています。(ブラック企業等)そこに、育児という選択肢はまだないと理解します。ではどうするか、社会にパート、派遣という職業を無くす事が一番です。

時短や育休を取得する為には、社員全員が意識改革しないと仕事の共有化や振り分けも難しいと思います。又、社員人数に対しての仕事量もバランスが必要

男性が育児のために休むにあたり、気まずく感じなくてもすむような職場環境づくり

リタイヤして久しいが、経験したことでは、現在の企業・職場体制は少数精鋭主義。育児休暇等を遠慮なく取得するには一般企業では難しい。

強制的に時短や休みを増やすなど法律などで勤務時間を下げる。

企業にもよるが、日本では「男子厨房に入らず」といった言葉があります。家事には口を出さない、その家事の中に育児も含まれていると思われれます。従って、一度に改革はできにくい。社会情勢の変化に伴って徐々にやらなければ、嫌がらせの対象にされる恐れがあると思われれます。

子どもと関われるような時間帯に帰宅できるよう労働時間の規制をする。育児のために休暇をとれば、その穴埋めを当人がしているのが現状である。育児参加を必要とする年代は、会社でも必要とされている年代であり、会社内での意識改革に企業が努めるべき。会社主催で、ファミリーイベントを企画するなど、家族サービスできる機会を作る。

中小企業でも政府が大きく旗を振るようにしなければ。

育児休暇の男性利用促進

制度が充実しても、「男のくせに育休とるの？」っていう固定観念が強くて、男性が育休を取りたくても取れない無言の圧力があると思います。

そもそも育児休暇を取る役職付きの人がいないなら部下は取れないと思う。会社が義務にするくらいでないと無理だと思う。

上司の理解

経済を立て直して非正規労働者ばかりの風潮を改善し、人々の仕事のやりがいと収入の安定を実現しないと心に余裕もできません。

職場ではどこまで育児に対して改善出来ているかです。

法律で制定する。

有給をとりやすくする。自分の勤務先では有給がとれないので。

育休をとることが特別なことでないような雰囲気が必要

有給等取りやすい環境

心置きなく休暇を取れる環境

企業が働きやすい職場でないと休暇は取得できない。

出世に不利益にならない様な取り組み

「男性は外で働くべき」という固定観念(自分も含めて)を変えていく必要はあるが、職場での自身の役割(例えばノルマなど)より育児を優先するなどはありえないし、各企業によって温度差はあると思う。社会全体がそうなるには、少しずつ意識を変えていくほかないのでは。

勤務時間を育児に合わせて融通をきかせられるような仕組み

職場への行政指導

フレキシブルな時間帯での勤務 パタハラのない職場となるように管理職の教育

育児休業制度については賛成ではあるが、民間の技能を要する会社に於いて長期(半年程度)の休業した際の穴をどの様にして補充するのか、また、育休、女性の産休後の職場ポストが以前のポストに復帰できるのかが休業取得する大きな障壁になっているのではないのでしょうか？行政である程度の大枠を作成しても個々の企業、職場別に対応していくシステム作成が不可欠。そうしないと育児休業制度は俗にいう絵に描いた餅で終わってしまうのでは？

有給休暇の取得、サービス残業の削減等の推進。但し、これらは企業の利益追求と相反するので難しい。

法律等の強制力が必要

育児に限らず、介護や自分自身の病気(がんなどの)療養などと仕事を両立しやすいよう、短時間勤務や在宅勤務など多様な働き方を選択できるようにする。さしあたっては、定時出勤と退勤の完全実施を目標にして、業務の効率化を図る。

職務の幅が広すぎて、労働時間が長引くので、効率が悪い。職務の内容を見直し、各担当を決め 各々がスペシャリストとして業務を進めて、結果、全体的な時短勤務(せめて子供と一緒に夕食を取れる時間には帰宅出来るよう。)をめざす。

残業を無くす意識改革、賃金の引き上げ

休みやすい環境を作るのは、もちろんだが意識改革が、進まない。

育児休暇を取りにくい環境であるため周りの意識改革が必要

在宅勤務など、外で出来るしごとは、容認する。ただし、情報管理をしっかりする。

男性の育児参加が当たり前と思う職場の雰囲気作りを進めなければと思います。

数日でも良いので、男性社員の育児休暇を義務化する。月に1日でも良いので、平日半休にして育児を促す。各会社へ担当職員が出向き、育児休暇の必要性を説く。商工会議所などから最初に講演を受けると良いと思います。

会社における労働の在り方は、20年前と少しもかわっていない。それなのに、男性の子育て参加ばかりが叫ばれている。子育てしたいのは、男性も一緒だ。しかし、会社に拘束される時間が短縮されているとは到底考えにくく、子育てがそこへ加わることの体力的疲弊は見逃せない。労働時間の短縮を行うべきで、短縮したことによって賃金が減少しないような施策が必要。有給休暇をとるのも難しい職場で育児休暇をとるのは絶対無理。まずは有給休暇を確実にとれるように仕事の予定をたてる事が出来る職場にしたい。

ノー残業デーの普及。個人の事情に合わせた時短勤務制度

男女年齢関係なく、家族の為に休みを取ったり、希望日に短時間勤務ができる環境が必要。上司から率先して行動して欲しい。お互いをフォローし合う雰囲気があれば休みやすい。家庭のことを考える暇がないほど 仕事に負われないように会社の業務システム自体を考える必要があると思う。休暇をとっても他の人が自分の仕事の代行をできるようにしておくなど。子育てのための時間が取得できるような職場環境ができていない。年休さえも取れないといった声をよく聞く。

企業超経営者の意識改革と行政の補助制度の充実（税制の優遇・改革、企業に対する補助金制度 等々）

時短や育休を取りやすくする。

残業や早出の見直し

育児参加を後押しするよう企業が理解する事

職種にもよりますが、完全週休2日制の導入、サービス残業ゼロ、男性が子育て参加する社内での理解。今の20代30代の男性は子育てや育児への参加にとても前向きだが、仕事環境がそれを阻んでいる。少しでも働き方や職場の環境が改善すれば、必然的に育児時間も増えてくると考えます。

上司が進んで育児休暇を取り、取るのが普通、という実績を作っていくこと。ひとつの仕事をひとりで抱え込まず、誰かが休んでも誰かがすぐに代わりができるようにしておくこと。まずは定時で帰って育児家事を少しでもやる時間があるようにしていくこと。

会社で男性が休むことをとやかく言わない環境を作ることが大切。中小企業だと古い男性が理解できなくて陰口等を言うことが多い。

育児参加のために、職場での業務の調整することをまわりが受け入れる雰囲気づくり

会社で取り組んで頂きたい。

職場での雰囲気、子供が産まれる時に、仕事を休むことをよく思わない独身の人がよく見かける。職場の人手不足で、出産、育児に知識が無いから言える事だと思うので、会社自体が出産はどれだけ大変か、産まれた後の大変な事大事な事を教えて貰わないと、経験が無い者、そんなに大変で無かった者にとっては分からないので、そこから意識改革して欲しい。

職場に父親も育児に参加するという意識改革

2時間、半日の有休の制度の検討。同時に会社のトップの育児に対する意識改革が必須で、そのために会社内の研修等の実施

まだまだ、男性は仕事が1番で会社中心で廻っているの、会社に居る時間を短縮し、会社半分 家庭半分の生活に取組む気持ちを持つ事が大事、会社の理解が重要だが。

職場での理解と協力が大前提

結局男は働いてナンボみたいな…育児休暇を素直に進める会社や上司がいない！

制度の充実（確立、推進、広報等）

育児休暇の取得を企業の義務として法制化する。

保育所への送り迎え等、男性でも女性でも夫婦どちらでもできるような時短制度を男性でも取りやすい環境になっていくと嬉しいです。

子供が生まれた男性従業員に対して有給休暇と同じように 一定期間必ず休暇をとらなければいけない日数を行政が定め、企業がそれに従わなければいけない法律を作してほしい。

育休や年休の取りにくさを改善

育児休暇を作ったとはいえ、やはり取れないのが現状のようです。育児休暇をとってない、または育児休暇に理解のない上司が多いので結局とれません。または夫は公務員ですが、職場の人数がもともとギリギリでやっていってるため、とれるわけはないらしいです。とってとらなくてもいい、という形のお休みなのでとれないのなら、強制的にとらなければいけない！くらいにしてもらわなければ結局お休みできないと思います。

男性の育児休暇取得を義務づける。

休める雰囲気ではなく人事評価に影響する。

うちの旦那は平日子供達とふれあいたくても、朝は子供達が起きる前に家を出て、夜は子供達が寝る前に帰ってくるので会えるのは隔週の土曜日と日・祝日のみです。朝は仕事が始まる1時間前に仕事場に準備をしに行き、夜は日が変わる時間まで残業をしています。仕事は工場で機械を触るので他の人ができず、休みを取りたくても取れない仕事です。毎日木くずの粉まみれで汚れて帰ってきます。職場の環境が育児どころか生活にも良い状況とはいえません。そういう職場の過剰な残業、無理な仕事配分をなくせるようまず会社の経営を指導してもらえればと思います。育児に携わりたくてもできない方々がたくさんいると思います。

残業を減らす。

職場の人員増加

就業時間短縮とか、積極的に取れる環境

職場に長時間拘束すべきではない。

男性が育児を理由に欠勤することをよしと思わない風潮が世間的にあると思う。

慢性的な残業、人員削減による正社員の減少、非正規社員の増加、全てが少子化を推進してしまっている。法律を決めている議員すら育児休暇を取得していない。まずは行政、大企業から育児休暇の取得を義務化し、違反した場合は管理職を罰してはどうか。

職場によって違うから、何とも言えない。

【問6-3】問6で「育児参加を後押しするよう行政の支援をより充実させること」と答えた方にお聞きます。具体的にどのような点を充実すべきと思いますか。詳しくご記入ください。該当者21名

職場の環境改善をするためにも、国・行政の支援を充実していかなければならない。

企業側の体制が整わないと行政指導をしても浸透しないと思います。仕事によっては育児参加が前もって申請しておかないと、支障をきたす職場環境もあると思います。

①まず、ブラック企業を撲滅する事 ②育児休暇を取っても、生活が成り立つ給与体系である事 ③保育園の待機幼児をなくする事 ④最低賃金をUPLし、時給¥1500円以上にする事 ⑤医療費・教育費を無料にする事

男塾が必要 母親に育てられたらアウト

わからないのでこれから勉強したい。

結局の所、夫が育休をすれば世帯所得が下がってしまう現状があるから実現が難しい。かと言って企業努力せよという経営者はその前に企業の経営安定が先でしょということになる。つまりは行政が支援しないと一般企業では育休は成り立たない。今回のアンケート狙いどころがなんなのかわかりませんが、もしも、男性の子育て推進が出生率の向上につながると思っているなら大間違いです。大企業が少ない地方では育休の推進よりも、まずは婚活を最優先にするべきです。育休が取れないから子供つからないのではなくそもそも結婚しないのが出生率低下の原因です。一方、育休云々、出生率云々の話ではなく「男性も育児に参加しましょう」ということでしたら男性が育児をしやすくするには先の「イクボス」が居るような会社があれば良いです。ただ、これも景気の悪い和歌山市で仕事より育児を優先しなさいとはなかなか言えないのが現状です。要するにすべては経済が上向いていないと人口流出→晩婚→出生率低下→生産性低下→消費低下 とデフレスパイラルは解消しません。行政にできることはただ一つ、経済対策を最優先していると言いつつ婚活を推進することです。

企業の人材確保の為に補助金など。

職場への啓蒙と強制力を発揮できる法体制の施行が必要

地域で子育てが必要

年寄りとの交流の場が必要と思う。地域で子供を見守る。遊ぶ事がやがて親が信頼をする。安心が出来る関係が築ける。そして親が用事の時、預ける関係となる。

自身が育休に取り組む気持ちが充分有っても社会及び職場環境が整っていないと摩擦が生じるのではないのでしょうか、支援体制を整備する事が重要と思う。

必ず、育休がとれる制度をつくる。

一般社会的に広報を促し、社会協力を義務化するか、中小企業などに推進を求めるなど、特に接客業などの企業では、配慮がほしいのではないのでしょうか！

育児参加の推進を実施した企業には、何らかの社会的メリットを導入する。

まずは、義務化するなど、強硬な手段でないと浸透しないと思う。

協賛してもらえるモデル企業を募集して、公表する。

【問7】男性の子育てについて、日ごろ感じていることがありましたら記入してください。

楽しそうな公園などの知識が無い。

子供が小さな時は、日曜日に公園に行くなど子供の相手をよくしてくれたが大きくなると、家事の手伝いはしてくれるが、進路などの相談はあまり積極的ではなくなった。子育ては子供が成人するまでなので、もう少し積極的に関わって欲しい。

私の経験上なのですが、毎日の子育ては母親が主体なので父親が、たまの休日の時など手伝ってくれたりするのですが、やはり慣れていないので手こずったり、失敗してしまったり。母親がそれを見てイライラすることもしばしば。それで、父親も母親に悪影響があるなら「自分は関わらないほうがいいのか？」と思い出し、そうして男性の子育て離れが起きているような気がします。もっと、母親も父親のすることに寛容に見守ることも大事だと私の経験上、父親の立場を思うとそう感じました。

いっしょに遊ぶことやと思います。

10年前に比べ、男性の育児参加は確実に増えていると感じる。今後10年に期待したい。

男性も子育てに参加すべきだとは思いますが、母親と父親の役割は違うと認識しているため、母親のような育児を行う必要はなく、あくまでも母親をフォローする育児であるべきだと思います。

多くの男性にはまだ家事を「手伝う」という意識が残っている。「手伝う」というのは他者の仕事について行うことであって、「自分の仕事ではない」という意識があるということ、これを改める方が必要。子育てについても同様である。

休日に母が出来ない遊びをしてあげてほしい。男性ならではのキャッチボールなどの遊びなど。

自分が現役サラリーマンの頃、仕事にかまけて育児参加をしなかったけれど、今振り返ってもっと育児に参加しておけば良かったと思っている。

夫の育児協力が第2子誕生につながり出生率の向上が可能となる。夫の1日あたりの育児時間が23分で全国最下位とあるが、和歌山は祖父母等との同居が多いのもその原因であるかも。データが必要なのは、母親の実態やマインドなのではないだろうか。

男性の育児休業について、サラリーマンは取得可能だが、自営業者・会社の経営者については実際に育児休業取得は不可能なので補助金を出すのは公平ではないかと思う。

自分には子が居ないのでわからない。

残業が多くて育児参加できない。

積極的にやるべき。

子育てについて意見が分かれた時にケンカになってしまうと余計に子供に悪影響なので譲れる所は譲りたいが、どう考えても相手が間違っていると思ったときにどう分かってもらうかが困る。自分の周りでは母親は本などで育児の情報を積極的に得ようとするが、父親は自分なりの子育てをしようとするので。子育ては正解がないので難しい。

休暇などは無理でも、家にいる時くらい子供と触れ合う機会を取る。

私には子供がいないので家庭内で子育てはありませんが、会社には子どもが生まれると育休を取ってそのまま復帰せず退職する女性が多く、女性が働き続けることが難しい土地なのかと感じています(私は大阪出身です)。和歌山市に住み始めて3年。常々保守的な土地だと感じてはいますが、「子育ては家族全員でするもの」という当たり前の感覚が欠落しているのはやはり男性の意識に問題があるように思います。都会に比べると通勤時間や忙しさはマシなはずなので、男性の育児に対する意識が変われば女性の社会復帰も叶うのではないかと思います。

甘やかすだけでなく、きちんとしつけが出来る父親が子育てに参画して欲しい。

母親でしか出来ない育児、父親が協力すべき育児とある程度割り切ることも必要かとは思いますが。父親も育児に参加すべきと、丸投げすることは避けるべきです。でないと子供の精神面に影響がでるのではないかと懸念します。

夫が手伝いをする人であっても、その家族や近所、友人、職場での理解がないことが多いので、子育ては母だけではなく、父親を含めた社会全体でするものとの意識を持ってもらうことが必要

職場で育児休暇の制度はあるが、使いにくい空気がある。

できる事をすればいい。1番困るのは「やってるつもり」「やってあげてる」という気持ち

自分が産んでいないからか、なんか連れ子な感じがする。小さい時もそうだが、大きくなっての注意も母親ばかりで腹がたつ。

男性の子育ては、イクメンという言葉がクローズアップされるということからみても特別感があるので、当たり前のことになってほしい。夫婦の間の子供であるのだから、子育てはどちらがしても当たり前。どちらもするのが当たり前。家事や仕事はどちらかに分担できても、子供を育てるということは協力があってこそだと思う。してできれば、子供にとっても幸せなのではないかと思う。

子供とよく遊んであげてほしい。

時代によって子育てに対して世間の考え方が変わってきたと思います。個人の子育てについては育った環境や状況によって違いがあるように思います。私は男性が積極的に子育てしてほしいと思います。

幼稚園や学校等の行事においても、母親が参加するものだという感じがする。

子育てだけでなく家事も積極的にすることで、母親の負担も減る(出産してすぐは特に！)と思うので、家事を積極的にやりたくなる政策があればいいと思います。おむつの変え方や赤ちゃんの特徴(夜中は何度も起きる、意味もなくぐずって泣く時もある)ということも出産して初めて知ることも多いのでそういうことも色々な方に知ってもらえたら育児をする時に役に立つと思います。

企業が邪魔をしている。

女性のみの子育てだと子供の行動屋思考が偏りがちになると思うので、男性も積極的に子育てに参加し、女性の苦労なども理解しより良い子育てとなるよう頑張ってもらいたい。

男は働いて女性は子育てする。

子育てに積極的なお父さんはいいなあと思います。休みの日にちょっと子どもを連れて散歩に行ってくれるだけで、すごく気が楽になります。

男性が楽しんで育児できる気持ちのゆとりが必要

男性の子育て「結構子育て手伝ってる」「家事も手伝ってる」と聞きますが、まず手伝う側というか、当事者であることの意識はあるのか？と思います。子育ては夫婦二人で協力して行うべきものであり、たまに手伝ってる、ではなく支えあって育てていくものではないのだろうか。

小生、勤務していた企業では、長期育児休暇取得している方も散見しました。職場でのバックアップ、意識改革無しには出来ないと思われそうです。

育休中ですが、夫は平日は子供の顔すらほぼ見ることのないすれ違い生活です。育児参加はほど遠いです。休日も仕事が終わらないからといって、仕事をしに行きます。私はかなりストレスがたまり、正直どうにかなりそうな時もあります。男性は育児に参加というスタンスがそもそも間違っていると思います。参加というと、どうしても主が女性でそれを手伝えばいい程度にきこえてしまいます。育児はそもそも2人でするものであって、手伝うものではないと思うのですが・・・

最近では休日に公園で遊ぶ父親の姿もよくみかけ、すごいなあと思っています。その反面、アクティブな遊びは一緒にするけど、砂遊びや木の実拾いは一緒にせず放置の人も多いです。男性も積極的に子供との関わりを学ぶべきだと思います。

お手伝いではなく自分も主体的に子育てをするという意識を持ってほしい。

「男性の」育児、「女性の」社会進出と特定していわれるたびに抵抗を感じています。性を限定した取り組みはいくらしてもあまり効果がないように思います。男女関係なく個人個人の得意分野で力を発揮し、助け合える社会を望んでいます。

子供の事で知らない事が多すぎて、毎日イライラします。父親本人が育児への関心があったとしても、仕事もしないといけないし、結局は会社が、父親の育児休暇取得を推進しないと何も始まらないと思います。

男性の方で育児休暇を取得するのは大変だろうと思いますが頑張ってもらいたいですね。

自分の体験から言うと、子育てに必要な時期は働き手が一番働きがいを感じる時期と重なっており、帰宅も夜遅くなる事が多く、現実的にはなかなか子育てに時間を割けないのでは。

とても子育てをしているとは言えない状態で、手伝いをしているというぐらいかもしれないが、感謝の気持ちを伝えるだけでも、母親の子育てのサポートになると思うので、感謝の気持ちを表現してほしいと思います。

日本の男は子育てに無関心すぎる、女性からもっと子供の世話をしよう、厳しく請求する社会に、個人事業主と会社も政府と地方自治体も参加すべきだ。

我が家の夫は、ほぼ育児に参加してません。子供と遊ぶことも、子供目線の遊びではなく自分がしたい事の延長にある内容のみです。その日々に妻として感じたことは、行政だとか家庭環境だとかよりも結局は本人の子供への関心ではないかと思えます。イクメン、イクボス表現は分かり易くていいと思えますが、人から言われて父親の自覚を持ち、自分のペースのみでは進められない育児に参加出来るものなんでしょうかね？

出来る限り、休み等では参加が出来ると思えますが、仕事の中に踏み込まれることは難しいと思えます。

男性にはどうしても、助けるとか手伝うと言う感覚があり共に子育て(家事も)する意識が低いように思えます。

子供の成長を見届けていくのが、親としての楽しみであり、務めでもあると思ってやって来た。

『たかいたかい』や男児のトイレマナーなど、母親では教えにくいことがある。また、男目線女目線で考え方も違うので、時間が無くても寝る前に一対一で話をする時間を設けて欲しい。

我々の時代は育児＝女性の感覚？意識であったが、現代に於いては男女共同参画の時代であり、社会発展の為にも男性の子育てについて積極的な施策を講じて推進していけば良いと思う。子育て世代の意識・感覚が重要だと思えます。

若者の独身主義・煩わしいことを回避する時代。何処でどう狂ったのか・・・それに子供虐待のニュースが頻繁！男性が子育てする等は、相応の給与と余暇・生活にゆとりのある階層だけに出来る事と思わざるを得ない。悲しいことです。

やって当たり前だが女性側にもいろいろな課題がある。

出来る範囲で協力すればいい。

男性では無理なこともある。でも家にずっといて子どもとずっと向き合っている母親の気持ちもわかってほしい。今から1時間お昼休憩です、なんて育児にはないのだから。

報道される人以外は、一切、子育てしてない。

当然男性も育児に加わるべきだと思うが、それには母親の立場と父親の立場をしっかりと理解し、それぞれの立場で関わるのが良い。

夫婦協力が一番

独身なのでわかりません。

仕事が忙しいからと子供との時間を おろそかにするともったいないです。子供が成長し、手が離れてくると、「あー、あの小さい時は可愛かったな。」と思っても 時は戻らないので積極的に子供と関わりをもってほしいです。

個人の資質の問題かと思えます。

人間としての責任感

育児に参加の意識があっても、仕事の忙しさから、なかなか思うように参加できないのが現状だと思う。育児に参加しましょう！と直接呼びかけるより、父親が、気軽に参加でき楽しめるイベントのきかをすすめてはどうか？父親も育児を楽しみたい！と思えることから始まると思う。

父親の子供が1歳までの育児休暇取得は、結局育児の為の休暇にならず本人の休暇にしかならない。なぜなら、育児に於いて父親が出来る事は限られているから。父親の育児休暇を推進するなら、就園時期から小学校在学中までの間に、病気の看病などの数日を有給休暇のように利用できる制度の方が合理的であると考えています。子供が小さければ小さいほど、父親は役立たずだ。

もっと積極的に参加して欲しい。若い人は、割と積極的だが、中年以降歳をとってから初めて父親になる人はなかなか手伝おうとしない傾向があると思う。男子厨房に入らず的な気持ちが強く根付いているのではないか。手伝わないで当たり前という感じだ。本人の気持ちの持ちようなのだろうが、とにかく育児に参加して欲しい。

少し育児をしたらえらいというような、やってやったぞという感じが好きではありません。根本的に意識を変えていかなければならないけれど、難しいでしょうね・・・。

生活環境は変えられないから考え方を変える。

和歌山は近くに親や親類がいたり、子どもに対して近隣も温かく見守ってくれたり、子育て的には恵まれた環境。それだけに、男性が育児に参加しなくても大丈夫な状況になっているのかもしれない。今後は意識改革できるようなイベントや広報・告知が大切だと思います。

子育ては基本女性がするものと意識的では無いだろうけれど、無意識にそう思っている様な行動、言動が常にある。

家庭において、必要があれば、堂々と育児をすれば良い。共働きで、妻の方が収入が多い場合は、夫が休むべきである。父母より祖父母の世代の意識改革がもっと困難だと思う。まだまだ女性に任せっきりである。

子供が好きな男性は様々で、たまに遊ぶくらいだから好きという人が多いように思う。毎日相手をして子供の手をしたいという男性が少数だから育児休暇を取りたい人も少ないのではないかと思う。

自分はやっていない。

社会の流れ！核家族！行政の支援！女性の社会進出！子育てについて見直す時期が来ている。その狭間にいる子供たちが被害者にならないように！

若い世代では昔と違って子育てにかかわろうとする人が増えていますが、雇用をしっかりとしないと無職の人で虐待したりする人も多いです。経済の立て直しを早急に実現してほしいです。

家事も満足にできない、子育てに慣れない男性に育てられる子供の迷惑を考えたら「育児は女性達のもの」なのは当然

かなり進んでいる。

仕事に支障のない範囲内なら積極的に子育てに参加すべきだと思う。

昔に比べて男性が育児に参加する人が増えていると思います。パパが抱っこ紐やおんぶしている姿を見かける事が多くなりました。こう言う姿が増えると男性も育児に参加する気持ちが増えると思います。

家事育児に積極的に関わろうとする男性が増えてきている。ただ、20代30代の男性と、40代以上の男性の考え方に隔たりがあるように感じる。職場で、『妻の出産に立ち会うので休みます』という20代30代に対して、『なんでそんなことで休みをとろうとするの？』と違和感を抱く40代。そんな職場で男性が育休を取るのは、非常に難しい。男性上司の意識改革が不可欠参加している男性が少なく、まだまだ育児は女性の仕事だと思っている方が多いと思います。

育児は女性のものという考えがあり、たまに育児をしても「手伝っている」という、どこか他人事な意識があると思う。育児は女性のもの、男性のものではなく、親のものという意識を持って欲しい。

女性、年寄りの理解が要ります。

時間的に余裕がない男性ですが、育児は作業だけでなく、言葉かけがあるなしでも大きく違ってきます。男性の意識の改革を促す支援があれば嬉しいです。

育児は妻がして当たり前、夫はたまにオムツを替えたりお風呂に入れるだけでイクメンだと褒められる。夫婦ふたりの子どもなので、ふたりで育てるのが当たり前なのにな～と感じています。

男性だけでなく男性の親の世代が「育児は女性がするのが当然」と思っているので、親の世代から考え方を変えていかないと難しいと思います。

子育てができる職場環境がないと不可能である。

まわりがどうであれ、例えば父子手帳交付していたとしても、本人にやる気がないと受け取らないし、育児にも参加しないので、長い期間かけて推進していくしかないと思う。母親が息子にこういうお父さんって素敵！と教えていくとか。パパウィークなんかに参加しているお父さんは既に育児にも積極的に関わっていて協力的なんだと思う。

和歌山は都会とは異なり、同居もしくは近くにそれぞれの祖父母が住んでいたり、保育園も入りやすいのでどうしても男性の出番が少なくなる状況にあると思う。無理に子育てに参加というより、積極的に子育てに参加したい人をサポートする環境を整える方がいいと思います。

最近ではイクメンと呼ばれる父親も増えているようですが、どうしても育児は女性がするものという考えが残っているように思います。

男性自身が子育てに関して2分の1の責任役割を自覚している人が少ない。

もっとCMなどで世間に知らしめるべき。

現在 両親労働者をする家庭が当たり前の様になり アットホームな家族が多くなっている様に思います 働く女性(母親)に対し、家事の負担を助ける男性(父親)が昔には無かった事かな？ 子育てを助けてくれる女性が無いのであれば仕方がないのだけれど、男性は外での仕事を第一にしてほしいな、と、古い考えでもあります では働く女性が増えて、男性と同じ働きをする人が多くなって、家庭に居る主婦が(子育ては当たり前)でなくなりつつ…

短時間だとわかりにくいと思う。

イクメンという言葉も流行ってきており、育児に参加する男性も増えてはいますが、まだまだ女性の役割という固定観念が拭えないと思います。もっと意識改革が行われるといいですね。有給であれば、育児休暇は取れる。会社は、強制的に取らせるべきである。もっと早期に(学生時代から)取り組むべき。

ママ友などまわりの話を聞いていると育児に参加しているお父さんがすごく増えたなと感じます。うちはどちらかというあまり参加してくれないので、羨ましく思います。

男性の子育ては大事です。しかし、育て方には様々あって、それは家族内のパワーバランスと伝統を男性が上手くやりくりすべきものであって周りがとやかく言うものではない。世間として男性も子育てを積極的にしないといけないと決めつけてしまうと益々晩婚未婚が増え続けます。好きあった者同士が結ばれた結果の子供であるならば夫婦で決めれば良いことです。結婚する時にそれなりの覚悟があるはず。覚悟が無くて軽く結婚し離婚に至っても子供は増えます。結婚前にハードルを上げる働きかけは根本的に間違っています。男性の子育て積極参加は正しく理想的です。しかし、それを当たり前、それが普通、常識、などのように決めつけて行政が推進するのは良くないです。あくまで男性の意思で何とか子育てに参加したいが会社と折り合いがつかない、所得が減るなどの問題に対してのみ支援する仕組みを作ればよい。最後に、先にも書きましたがこのアンケートの狙いが良く分かりませんが原因を追究するのではなくて真因を追及する行政改革を目指してください。よろしく願いいたします。

一概には言えませんが、男性の方が、感情的にならないで、理性で考えて行動する事が出来ると思っています。ただ、和歌山県人の男性は、甘やかされて育てられているので、頼りなく思っています。イクボス、イクメンは、ほど遠い！！

子供に何かかってあげればよい、それが育児に参加していると思っているところがある。そうではなくて遊んだりもっと交流を持ってほしい。

家庭内の役割分担が、必要と思う。

どんだけイクメンしてるのなんて周りをみるとママはいらないなあって思えるくらいで、男として子供に見せるべきなのはママの代わりになることなのかと疑問に思うのはオバちゃんの考えなのでしょうか。

子育ては女性だけの仕事ではないのにそう思われがちである。

今現に起きている現象、そしてこれからの人口減少や少子化は、多くの女性の有言・無言による反乱だと思う。地方自治体や国は、視野狭窄で対応するのではなく、過去100年くらい前から人口を制御してきた施策のまずさを、いまいちど振り返るべき。人口の増加が戦争を引き起こした理由のひとつになったこと、戦後復員してきた若者が生んだ世代は、短期間のピークをつくったこと。かつてのように、多産でなくても子どもが途中では死ななくなったこと、団塊世代は、幸い時代がよかったから、人口を再生産するひとが「標準」だったかもしれない。が、その子世代、第二次ベビーブーマー以降は、子どもを育てることにかかる出費に耐えられない悲惨な雇用形態や低賃金、長時間労働にあえいでいる。子育て世帯だけを支援するのではなく、子どもを産む年代にあるすべての人に、もし、一律5万円月々の収入があったなら、希望が持てる。その結果として、子どもをもとうと思う人も増えると思う。

子供(孫)の良いところは父親似、悪いところは母親似(というか母親との時間が長いから影響している)と言われることが多い。特に父親とその両親に。単身赴任で父親と接する機会が少ないが、子育てに困ったと思うことはない。我が家だけかもしれないが。

子育て世代は私たち(60代)世代からするとよく子育てに参加をしていると思います。男性の育児休暇については、特別な必要性がある場合を除いて、賛成ではありません。

「仕事と育児の両立」というのは大事だし理想だとは思いますが、口で言うほど容易くはないでしょう。

最近積極的な方が増えたと思う。

もっと積極的に参加すべき。

とても必要だと思いますが社会全体の認識が薄い。女性の社会参加の観点からもっと当市が積極的に取り組むべきです。

仕事優先でなかなか子供と触れ合う機会がない。仕事をしなければ家庭の経済がまわらないのは十分承知しているがもう少しゆとりがあればよい。

小さいことからコツコツと。

自分も数年前に民間の企業を退職しましたが、私たちの子供の小さい頃には父親参観、運動会なども家内任せで会社を休む等は出来なかったが、私たちの後輩40代の世代ではそれが当たり前のように休暇届を出してきて時代が変わってきているのも感じられたが、それらは1、2日程度の事で済み、長期の休みとなると私達の世代では???

最近では割と子育てを手助けする風潮になっているのではないかと。

出世を諦めた公務員でもないかぎり、時間をとって子育てにかかわるのは、難しいと思う。

和歌山の現状と意識の低さに絶望

いつまで経っても子供の親という自覚がない。自分自身が子供のようなものである。育児休業の仕組みが発達しても、ただ休まれて何もしない日々が続き、かえって負担になりそう。

まだまだ日本は男性が家事や育児をできなくてよいという考えが多い。小さいころからの意識づけが大切だと思う。

夫は国家公務員で、泊まり勤務のある仕事についていますが、できる限り育児に関わろうとしてくれているので、本当に助かっています。下の子の出産時には、職場の理解を得て育児参加休暇を限度いっぱい取ってもらうことができました。前例を作ることで、後に続く人たちも気持ちが高まったのではないかと思います。それぞれの家庭によって、さまざまな事情があるとは思いますが、時間の許すかぎり育児に関わってほしいと思います。

街中で、最近はお父さんが赤ちゃんをよく抱っこして、お母さんと一緒に買い物をしている人が多い。男性が子育てに関わるのがごく普通に見られるようになり良くなった。

会社では、育児休業をまだなかなか取りにくい状況かと思えます。

最近の建物(高速のSA・ショッピングセンター等)でも、おむつ交換台が女性用トイレにしかない場合が多い。男性の子育て参加というがまだまだ浸透していないのかな?と思う。

子供を育てることに参加できる有り難さを知る。

子育てに参加するもしないも、その人の個人差が大いに関係してると思うので、特に何かを求めるという期待はあまりしていません。

価値観は常に変化していますが、和歌山の男性は古いままの人が多く感じます。イクメンしてます!など外面だけ繕っているような一時的イベントにお金をかけるよりも、義務教育の場などに働きかけて、根本的な考え方を改められるような定期的で継続性のある取り組みをしてもらいたいです。

家庭の事情により、父親の役割は異なると思いますが、職場の環境を整える、行政も支援するといった、社会全体の支援体制の充実は大事なことだと思います。

今までは、どうしても、育児という女性の仕事だと決められていた部分が多かったと思います。男性も女性も同じ意識を持って育児に積極的に参加していくことが大切だと思います。

専業主婦の場合子育てはどうしても母親主体になりがちだが父親もできる範囲で協力すべき、共働きでは男性も育休を取るなどの配慮も必要。趣旨は違うが最近育児放棄などをよく耳にするのがとても残念に思う。子育ての喜びを啓蒙できないか。

最近では子供が小学生になり、夜や休日は積極的に遊ぶようになったが、乳児の頃は係わり方がわからない様だった。当時は手伝って欲しいと思っていたが、帰宅する頃には寝ていたし、日頃から接する機会がなく、仕方ないかと今では思う。

職場だけでなく社会全体での意識改革が必要 あまり長い間休んでいたり昼間子供と公園などで遊んでいると周りから白い目で見られるため。

若い年代の方は、協力的に参加しているように思いますが、年齢層によって違いが出ていますね。

長時間労働が当たり前になっているため、子育てに関与する時間が少ないのだと思います。夫婦とも定時退社できる環境であれば、父親にできることも多いし、同時に女性の雇用も確保できると思います。和歌山で共働きしようと思うと、保育園まで遠かったり、民間で預かってくれるところが少なかったり、実家を頼っているのが現状だと思うので、実家を頼っている母親支援だけでなく、行政としては男性1人で家族を支えるそのシステムを変える施策を打ってほしい。

今時、男性の子育ての協力は、30数年前前と比べると雲泥の差があります。でもまだまだかかわりは必要だし、もっともっと育児に参加してほしい。仕事との両立は大変だと思います。でも頑張った結果は後できっと報われます。

自分が主体とならない以上、いつまでもお手伝いの感覚で困る。特に和歌山では祖父母の助けがある人が多いため、自分がやらなければと思っている男性は少なく感じる。

子供が人生を切り開いて行くために何に重きを置いてを考え、行動してゆくかの基本をみっちり教えてゆくという姿勢が大事だと思う。

女性の求めている子育てと男性のできていると思っている子育てにギャップがあると思う。自分の子供にどう育てほしいか、そのためにはどのような家族や親であるか、どのように役割を分担して関わっていくのか。夫婦でそういうことをすりあわせすることが必要なのではないかと思います。

ご近所に、ちいさな子供がいませんので、男性の子育てを、見かけません。

もう子育てからは卒業した身ですが、女性も今や子育てしながら仕事復帰や家事までもこなす人はたくさん居ますので、職場だけが男の場所などと言わず、家庭があつての仕事なんだと再度、認識を高くもってもらえるよう社会全体で広げるようにしてもらいたい。

男は子育てに参加する気風がない、可愛がるだけでは子育てと言えない。

男性が子育てにより、本来の仕事がおろそかになることが懸念されます。

育児は24時間365日休みがないということを知ってほしいです。実際に体験しないと、本当に理解してもらうことは難しいと思います。

折角子供が授かったのであれば、ほっといてあげたら

時代は変わりつつある。育児を男性がすべきでなく家庭の事情で男性も協力する必要はあるだろう。

女は仕事しても家事育児もやらないといけない。男は仕事さえしてたら自由でいつも不公平だと感じます。

職場でほかの人が働いているのに育児を理由に休むのは非常に勇気があることだと思います。市で法令化して、強制力を持たせるくらいでないで育児休暇を取ることは難しいのではないかと思います。

女性に、社会参加を進め、男性に子育てを進める。みんなが体的にも精神的にもいっぱいだけの社会はゆとりがなくギスギスとしたものになりはしないか。さらに年金問題など、経済的にも今の若いひとたちは何重苦をも背負わされることになりはしないか。男性の子育て参加をすすめることは、子供にとっても素晴らしいに違いないが、経済的子育て支援をもっとしなければ、少子化はおさまらない。

子育てを自分自身も童心に帰り楽しんでいる。

夫婦ふたりで子育てをすると、子どものしつけや教育論で意見が一致している時はいいが、もし意見不一致が増えてきたら離婚率もあがる気がする。夫婦どちらかが少し下がって子供を見守る環境作りが大切だと思う。

祖父・祖母や親せきが子育て支援をするべき(戦後の高度成長期の社会は そうだった)私の地域ではそうやった。

休日は親子で過ごす時間を大切にしている家庭が多くみられますが、平日共働きの家庭はまだまだ女性の負担が多いように思う。

男性にもっと積極的に子育てに参加しようという気持ちを持ってほしいと思う。

子育てに積極的に関わっている男性も多いと思う。子育てをすることが、妻の尻に敷かれているといったようなマイナスイメージがあるので、イクメンを公言できない男性もいるのでは。核家族が多い中で、母親だけの価値観で子育てするより、両親が関わるメリットは大きい。

基本、子供を育てて道徳心のある大人にするには、母親がしっかりとした女性でないと(勉強の知識があることではない。)立派な道徳心のある子供や大人は、育たない。男性の子育ては、基本不要である。子供に世のため人のために働いている姿、背中を見せるだけで良い。どの動物の世界でも、母親が子供を育てている。

共働 今後は共同作業での生活

休暇や助成金を充実させるより、境域過程で育児についての意識改革の教育を行うべきだと思う。子育ては、休暇がもらえるから、助成金などのお金がもらえるから行うものなのかを今一度考えるべきである。

子育ては、母親がメインにするべきだと思うが、男性はまったくかかわっていないというのは問題であると思う。リーマンショック後、仕事環境が厳しくなって子育てにあまりかかわれないでいるように思う。子育てには男性が要所要所のところで父親としてかかわることが必要だと思う。

手伝いでは無く、自身の対応事象としての認識が重要と考えます。

和歌山でも昔に比べれば大分イクメンは増えてますよ。

共働きが多い現在、子育ては女性男性両方がかかわっていくべきだと思う。

必要だと思う。

企業の理解(上司の理解)が、まだ昔の考え方から変えられていない。

今のお父さんは育児に参加している人が増えたように思います。

昔に比べれば、男性も育児に参加していると思う。

主婦に任せっきりの傾向にありすぎる！

世の男性達は仕事と家庭のバランスをとるのが難しい。仕事を頑張りたいが家庭もおろそかにできない、ストレス社会でもあるし昨今ブラック企業が世の中に蔓延しているので、職場の環境改善が早急な課題だと思う。

私が子供のころに比べて育児にかかわる男性も増えたと感じます。これ以上の負担は仕事へ影響してなおかつ社会の発展に弊害をもたらすことと危惧しています。男性には男性の役割、女性には女性の役割があるので男女平等を謳い役割分担を強制的に推進する社会はおかしいと感じています。男性が子供を産めるわけでもなく、女性が男性に子供を産んでもらえるわけでもないで、それぞれの特性を生かした役割を果たすことが大事と推奨するのがいいと考えています。どちらが大変とかどちらが偉いのではなく、お互いの役割を認め合うことが大事なんだと認識して社会が推進してほしい。

嫁とのコミュニケーションからの育児。嫁の育児の大変さの理解、協力。が大事だと思います。

多くの男性は、育児のお得な部分だけを取っていきがち。こどもと遊ぶのはいいけど、学校で問題があった時には母親任せ、など。特に和歌山は祖父母が近くにいる母親が多いので、自分の親を頼り父親の出番がますますなくなっていると思う。千葉にいた時はもっと父親の出番の多い人がたくさんいた気がする。

子供と接して楽しんでほしい。

意識改革から始めないとどうにもならない。自分は育児参加しなくてせに妻が実家に子供を連れて行くと不機嫌になるなど和歌山のオトコはわがまますぎる。そういう悪しき伝統を碎かければこの県も市もどんどん衰退していくばかりである。自治体レベルから啓発すべき！

男性が子育てにどのようにかかわるかは家族ごとに違うはず。どのような場合でも職場が受け入れられるように理解すべき。

我が家は義父が社長で主人が次の後継者として現在従業員の一人として働いています。正直休みもなく、子供とのふれあいはとても少ない家庭だとは思いますが主人はとても子供のことを思ってくれていると思いますし、時間のあるときは率先して習い事の送迎や通院、学校行事にも参加してくれている事を子供は理解しているし私も子供に話すようにしています。子供が息子二人。正直毎日定時に帰ってきて土日休みのお父さんが羨ましいと思うこともあるけれど、正直子供を育てるのには綺麗事抜きでお金がかかるので毎日休みなく働いて教育費を捻出してくれる主人には感謝しています。

子供が泣く事について、初めての時はウルサイ！泣き止まない腹立つなど言われたり、仕事で疲れているのに夜泣きされたりすると気を遣う。今は母親でないとダメなんだと、泣くのが仕事と理解した上で、沢山遊んで好きになって貰っているが、出来ればトイレトレーニングなども付き合っ欲しい、オムツがばんばんになってもママ替えて～のみ手を離せれない時はちょっと替えてよって思ってしまう。でも、周りのお父さんは子供と遊ばない所もあって、父親なのだから、我が子ともっと関わっていく姿勢を持った方が良いと思う。逆に子供と接する父親が入ると安心できる

自分がするというより、手伝ってあげているという気持ちがある。それがなくなると限り根本的解決には繋がりにくい。

男性にとって育児でできることは限られている、と父親自身を感じているようです。そんなことはないとは思いますが。母親から「〇〇して」と指示がないと動けない、何をしたらいいのかわからない、指示されてもどうやったらいいのかわからない、という父親が多いのではないのでしょうか。父親自身の育児参加への関心を高めるべきだと思います。子育てできる時間はとても貴重な体験ができる時間だと私は思います。のちに、後悔しても取り戻すことはできません。子供が成長する時間を母親と一緒に経験してもらいたいと私は思います。

若者が育児に良く参加してる現場を見かけます。素晴らしい事です、あたたかく見守ってやりたい。

家庭で家事をしながら、働く時間に追われて、自分の中でゆとりがなくなってしまい、子供に心の負担を持たせてしまいがちでした。そんな風にならない、時間のゆとりが一番必要ですね。

イクメンも増えてきているし、子育てを体験してくれるだけでも、大変さが分かってくれ言葉や態度が変わっただけでも、救われます。

父親が育児に参加することはいいことだけど、それが「特別」のように言われるのは、なんだか違うと思う。「当然のこと」として推進して欲しい。

子育ては母親がするものと、上司になる方が思っているのは、いくら父親が育児参加しようとしても、会社が理解してくれなくては難しいと思います。年代もあるのかもしれませんが、家事も育児も女性の仕事という風潮があり、我が子に教えたわけでもないのに、そのような言葉を発しておどろいたことがあります。いくら理屈で教えても、受け入れてもらえり環境が無ければ、難しいと思います。県外から男性の子育てに理解のある経営者を招いて、男性の育児参加を企業に働きかけてはどうでしょうか。大きい地元企業が推進して評判が高まれば、地元中小企業も見習うのではないかと思います。まずは、上司や経営者に働きかけるべきだと思います。

子育て世代の共働きの場合、家事も育児も半々ですみませんが、女性がパートの場合就業時間が少ないので、家事育児女性が長く接します。でも近くで見ている限り、土日とか男性が育児に頑張っています。性別的に、どうしても女性が適しているように思います。7対3の割合で育児にかかわりがよいと思いますが、一個人の意見です。

若い世代を中心に頑張っている男性が多いように思います。ただ女性も働きたいのに、女性はパートに行くだけでも子供の預け先から送り迎えまでしなければ思うように働くこともできません。まだまだ男性が働き、女性は子育てといった雰囲気はどうしてもあると思います。

家事をするより屋外での遊び相手や家庭内での力仕事等男性の特長をいかせるようなことをするだけでいいと思う。いくら男女平等といっても女性には女性の、男性には男性の、母には母にしか、父には父にしかできない役割があると思うので他者が決めるのではなくそれぞれの家庭でそれぞれがしやすいようにすればいいと思う

子供はほんの数年で大きくなり、一人でなんでもできてしまうようになるので、小さいうちに触れ合う貴重な期間を逃してしまうのは子育ての上で非常にもったいないと思う。苦労もあるけど、日々成長する子供を間近でじっくり見る幸せを、父親にもぜひ感じてほしいと思う。

男性も、年に数回育休有休みたいな休みがあれば、育児に参加出来るし、普段のお休みは、身体も休まるのではないかなと思います。子どもは、お父さんと過ごすのが楽しいみたいです。

参加したいと感じていても、制度や社会全体の支援が浸透しないと参加出来ないケースが少なくないと思います。

男性が父親になるのは時間がかかるように思います。働いてるのだから休みの日は休みたいのでしょう。母親には24時間365日お休みがないので、私にもお休み頂きたいものです。

社会、職場環境、家族内(実家含む)の認識を変える事が先決です。また、企業、従業員の両面で、経済的に育児休暇が取得できる実情に持っていく事も重要です。

イクメンなどという言葉が目立つけれど、行政やまわりに押しつけられてするものではないと思います。それより母親が安心して子育てできる環境を国や行政が考えていくことの方が大切かと思います。

育児は女性のものだけではないし、仕事も男性のものだけではないという世の中になってきているので、お互いの意識を改めていかないとだと思います。女性が少しパートに出るだけでも休みづらかったりするのに、フルタイムで仕事されてるお父さんに子育てまでお願い！は負担になるかなと。最近パパニティブルーという言葉を知り、子育て以前の問題？と、なんだか複雑な気持ちになりました。

育児に男性も女性もないと思います。みんなで未来を担う子供たちを育てていけたらと思うのですが。

女性が社会人として働いているケースは多くなってはいるが、いまだ男性が育児に積極的とは言えないと思う。

家庭環境によって様々ですが立派に独り立ちできるように育てることだと思います。

きちんと子供が小さいうちにしつけの部分もしてほしい。

職場の理解が低い。

男性も積極的に子育てをすべきで、子供が少ないので母親の負担を少しでも手伝いするのもいいのでは。

女性にしかできない部分は任せなければならないですが、仕事(収入)に差し支えない限り男性も協力すべきですが、国・地方行政ももっと積極的に後押ししないと前へ進まないと感じます。

わざわざ、男性の子育てと言っていることが寂しい気がします。公園とかで、子供と遊んでいたら、イクメンとか言われたりして、いい迷惑です。なんなんでしょうか？ こういった変な運動がなくなればいいと思います。

妊婦健診や出産後の検診に赤ちゃんのパパが、一緒に来ている光景は、見ていて感じが良い…。二人の子供なのだから、二人で育てるのが、当然だと思う…

子育ては母親がすべきという考えを改めるべきだと思う。とはいえ、とても積極的に育児に参加されているお父さんもよくみかけます。その差がはげしい気がします。

友達が旦那が育児にあまり協力的でないと聞いたりします。男性と女性がいないと子どもはできなくて、2人の子どものみだからできることをお互い協力できたら良いのになとよく思います。子育てはどうしても母親じゃないとできないことがあると思います。その時に家事を代わりにするのも子育てのひとつじゃないのかなって思います。

男性の関与は進んでいると思います。

まずは、職場のマインドを変えること

向き不向きはあると思います。全員がある程度の育児に参加することは幸せの一つの形ではありますが、あくまでも、望んだら選択できる社会を目指したいと考えます。不器用でやる気のないお父さんに無理矢理育児を委ねられたら、子が気の毒です。

育児参加という言葉は、何となく「子供を育てる義務」が強調されているように感じています。オムツを変えたりお風呂に入れたりと言う作業的な事ではなく、子供との時間が貴重だということに気がつけば、男性ももっと育児に積極的になると思います。子供が心豊かに育つためにも、父親が子供と過ごす時間を大切にできる社会になってほしいです。

子育てに対しての男性の考え方がなかなか昔の考え方のままでいる男性も多いかと思うのでその考え方、とらえ方の理解だと思えます。育ってきた環境と地域性もあり難しいとはおもいますが・・・

日本の社会構造自体が男が育児はできない体系になっている。東京ならまだしも地方ではそれも顕著。まずはその構造を壊す風潮が必要

子育てに理解があり積極的であれば、二人目・三人目と考えますが、『俺が子育てするから、お前が代わりに会社に出て仕事をしてみろ』と、家事や子育てを見くびっている男性もうちばかりではないと思います。そういう人は、いくら社会が『父親の育児参加』をうたってもあまり変わらないと思います。

最近の若いお父さんは、育児に参加している人が多いイメージを持っていました。でも全国最下位というのは、職場の空気なのかな？

最近叱る方法を知らない男性が多い。

若い男性世代ばかりに負担を押し付けるのではなく、死にかけの老害連中の考え方を矯正していかなあかんのとちやいますかね。

男性が育児に参加することをよしと思わない風潮が世間的にあると思う。

育児を日頃母親だけに任せるのではなく、休日など出来る範囲でも良いので、父親にも育児に参加したいと思ってもらえる意識改革が必要だと思えます。

日本の男性は育児もしないが家事もしない。教育が間違っているのではないのでしょうか。

どうしても今の世の中が男性が働くものという風潮が見られます。男性が子育てに積極的に参加するには女性が仕事をしていることが前提となると思えますし、そうなれば、預ける先、つまり保育所等の整備が必要だと思います。ただ、子育てしながら働けないという女性もいますし(女性は特に授乳の問題があり、乳児の間はまとまった睡眠時間をとれないので)、男性に女性と同じ役割を担うのは無理があるのかなと考えます。

会社の公休をうまく使用し工夫すべき

皆さん、頑張ってる。

①先ず、ブラック企業を撲滅する事 ②育児休暇を取っても、生活が成り立つ給与体系である事 ③保育園の待機児童をなくする事 ④最低賃金をUPLし、時給¥1500円以上にする事 ⑤医療費・教育費を無料にする事

非常に多くの貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

平成25年に男性の育児参加について調査した結果と比較しても、男性の子育ては確実に推進、定着してはいますが、まだまだ十分であるとはいえません。

いただいたご意見を参考に、今後も社会全体の意識改革や男性を取り巻く子育て環境の改善等に取り組み、子育て環境の充実に努めてまいります。